

平成 24 年度

学 校 要 覧



上田市立清明小学校

ニワウルシ (シンジュ) *Ailanthus altissima* (ニガキ科 ニワウルシ属)

ニワウルシはシンジュとも呼ばれる落葉高木であり、中国の原産である。明治初期に渡来して以来、各地に植えられている。「にわうるし」と呼ばれるのは葉の形がウルシに似ているためであろう。実際には「ニガキ科」に属し、ウルシとは違う。もちろんかぶれることはない。

高さ約20mになる夏緑高木。葉は奇数羽状複葉、小葉に腺体があり、その部分が不規則な鋸歯となる。葉は40~100cmと大きいので枝が太い。小葉は長卵形で先は細くとがる。夏に緑白色の小さな花を円錐花序につけ、果実は扁平な莢の中に一つ入っている。

成長が早いため街路樹や公園などに植栽されるほか、河川沿いなどに広く野化している。和名は葉がウルシ属のように羽状複葉になっているが、かぶれないので庭に植栽されるとの意味のようである。単木状に生育しているときにはそのまま高木となるが、伐採されると近隣の場所に多数のシュートを形成する。毎年刈り取られても残りの期間で高さ数mにまで生長する。石垣の間などからも幹を出しており、場所によっては一面にニワウルシが生育して群落を形成している場所もある。また、シンジュは英語名「Tree of heaven」を訳した神樹に由来するという。庭園木としては大きくなりすぎ、樹形も乱れがちであるが、神樹蚕を飼育して生絲を生産したことがあり、各地に植栽されたものであるとの指摘がある。

雌雄異株であり、6月頃に枝の先端に花序を形成する。果実は長さ4cmほどになり、周囲に翼を持った種子が形成される。風に乗って遠隔地に飛散させる、風散布種子である。

